

## 名誉教授称号授与式の挙行

THEサステナビリティインパクトレーティング2026 総合ランキング世界7位・7年連続国内1位を獲得  
半導体に命を吹き込み、未来を切り拓くー北海道大学が半導体ビジョンとIFERSミッションを公表ー



## 全学ニュース

- 1 台湾・工商協進会が本学を訪問
- 2 北海道大学ディステイングイッシュトプロフェッサー称号授与式を举行
- 3 北海道大学ディステイングイッシュトリサーチャー称号授与式を举行
- 4 名誉教授称号授与式の举行
- 5 第22回（令和8年度第1回）新渡戸カレッジメンターフォーラムを開催
- 6 新渡戸カレッジと札幌市の連携による「グローバル発展科目Ⅰ」を実施
- 7 令和8年度北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を举行
- 8 札幌・函館両キャンパスで環境・美化活動の「キャンパス・クリーン・デー」を実施
- 9 ホライズン・ヨーロッパに関するセミナー及び意見交換会を実施
- 10 北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）
- 13 モンゴル・日本人材開発センター（MOJC）視察団が来学 北海道大学のアントレプレナーシップ教育とスタートアップ支援を紹介
- 14 産学・地域協働推進機構、台湾・国立清華大学とMOUを締結 サステナビリティ分野における次世代アントレプレナーの育成へ
- 15 地域と連携した本学のグリーン人材育成の取組を環境省主催の検討会で紹介
- 16 THEサステナビリティインパクトレーティング2026 総合ランキング世界7位・7年連続国内1位を獲得
- 17 Rapidus社CTO×北大教授陣による講演・座談会の開催
- 18 半導体に命を吹き込み、未来を切り拓く ―北海道大学が半導体ビジョンとIFERSミッションを公表―
- 19 北海道大学「北大道新アカデミー」2026年度前期プログラムを開催



札幌・函館両キャンパスで環境・美化活動の「キャンパス・クリーン・デー」を実施



THEサステナビリティインパクトレーティング2026 総合ランキング世界7位・7年連続国内1位を獲得



台湾・工商協進会の訪問団が来学



北海道大学ディステイングイッシュトプロフェッサー称号授与式を举行

## 部局ニュース

- 20 経済学部成績優秀者表彰式を举行
- 21 経済学部「グローバル・チャレンジ賞（横山和子賞）」表彰式を举行
- 22 医学研究院で研修会「研究活動におけるAIの適切な利用法」を開催
- 23 令和8年度医理工学院博士後期課程中間発表会を開催
- 24 獣医学部におけるEAEVE認証継続のための本審査の実施
- 25 環境科学院で北大祭・研究施設公開「環境科学を体験しよう!!」を開催
- 26 スラブ・ユーラシア研究センター公開講座「ロシアと中東」を開催

## 博士学位記授与 27

## 研修

- 31 令和8年度法人文書管理に関する研修（初任・新任職員向け）
- 32 令和8年度北海道大学初任・新任職員探訪研修（北大学）

## 表敬訪問 33

## 人事 34

- 34 新任教授紹介

## 訃報

- 35 名誉教授 鵜飼 隆好 氏



経済学部「グローバル・チャレンジ賞（横山和子賞）」表彰式を举行



獣医学部におけるEAEVE認証継続のための本審査の実施

## ■全学ニュース

### 台湾・工商協進会の訪問団が来学

6月29日（月）に、台湾を代表する経済団体の一つである工商協進会の訪問団が来学され、役員らとの交流が行われました。

当日は、野口 伸理事・副学長の進行のもと、石塚真由美理事・副学長から本学の概要を、瀬戸口剛理事・副学長から本学の研究内容の紹介を行いま

した。

引き続き、「スマート医療」をテーマに、医学研究院の工藤興亮教授らによる説明が行われました。説明では、スライドによるプレゼンテーションに加え、トレーニング用手術顕微鏡を用いたリアルタイムデモンストレーションが実施され、参加者は本学の先進的

な医療技術の一端を熱心に視察されました。

最後に記念撮影が行われ、和やかな雰囲気の中で訪問を終えました。

（総務企画部総務課）



本学の概要を紹介する石塚理事・副学長



本学の研究内容を介绍する瀬戸口理事・副学長



スマート医療について説明する工藤教授



記念品を贈呈する野口理事・副学長（左）と  
羅 忠祐工商協進会監事（右）

# 北海道大学ディスティングイッシュトプロフェッサー称号授与式を挙行

6月10日（水）、北海道大学ディスティングイッシュトプロフェッサー称号授与式を執り行い、関係者列席の下、新たに称号を付与された者2名（坂本直哉教授、小林達夫教授）に対し、實金清博総長から称号楯が授与されました。

北海道大学ディスティングイッシュ

トプロフェッサー制度は「北海道大学創基150年に向けた近未来戦略」の策定を機に、教育研究の一層の推進に資することを目的として、平成26年度に創設したものです。人格が高潔で、世界水準の優れた研究業績を有し、今後更なる研究の進展が見込まれるとともに、本学の名誉を著しく高めることが

期待できる本学の教員等へ称号を付与します。

なお、今年度に称号が付与された者（更新となった者を含む）は、以下のとおりです。

（総務企画部人事課）

| 所 属                     | 職 名   | 氏 名                | 称号付与期間              |
|-------------------------|-------|--------------------|---------------------|
| 総合イノベーション創発機構ワクチン研究開発拠点 | 教授    | 澤 洋 文              | 令和8年4月1日～令和11年3月31日 |
| 医学研究院                   | 教授    | 豊 嶋 崇 徳            | 令和8年4月1日～令和9年3月31日  |
| 医学研究院                   | 教授    | 坂 本 直 哉            | 令和8年4月1日～令和10年3月31日 |
| 理学研究院                   | 教授    | 小 林 達 夫            | 令和8年4月1日～令和11年3月31日 |
| 環境健康科学研究教育センター          | 招へい教員 | 岸 玲 子              | 令和8年4月1日～令和9年3月31日  |
| 先端生命科学研究院               | 招へい教員 | コスタンティノ クレトン       | 令和8年4月1日～令和9年3月31日  |
| 先端生命科学研究院               | 招へい教員 | マイケル ルビンスタイン       | 令和8年4月1日～令和9年3月31日  |
| 人獣共通感染症国際共同研究所          | 招へい教員 | ロレーナ エリザベス ブラウン    | 令和8年4月1日～令和9年3月31日  |
| 人獣共通感染症国際共同研究所          | 招へい教員 | ウィリアム ウォームスリー ホール  | 令和8年4月1日～令和9年3月31日  |
| 人獣共通感染症国際共同研究所          | 招へい教員 | エリザベス ルーズ ハートランド   | 令和8年4月1日～令和9年3月31日  |
| 人獣共通感染症国際共同研究所          | 招へい教員 | デイビット チャールズ ジャクソン  | 令和8年4月1日～令和9年3月31日  |
| 人獣共通感染症国際共同研究所          | 招へい教員 | アーナブ ペイン           | 令和8年4月1日～令和9年3月31日  |
| 薬学研究院                   | 招へい教員 | サラ ルーズ ローランド ジョーンズ | 令和8年4月1日～令和9年3月31日  |
| 薬学研究院                   | 招へい教員 | サイモン ジョン デーヴィス     | 令和8年4月1日～令和9年3月31日  |
| 総合イノベーション創発機構化学反応創成研究拠点 | 招へい教員 | ヴァーネック アレクサンドル     | 令和8年4月1日～令和9年3月31日  |



（左から）野口 伸理事・副学長、小林教授、實金総長、坂本教授、瀬戸口剛理事・副学長



授与式の様子

# 北海道大学ディスティングイッシュトリサーチャー称号授与式を挙行

6月3日（水）及び6月10日（水）に、北海道大学ディスティングイッシュトリサーチャー称号授与式を執り行い、関係者列席の下、新たに称号を付与された者4名（大城 賢准教授、鈴木悠平准教授、久保田浩司教授、山口 諒

助教）に対し、寶金清博総長から称号楯が授与されました。

北海道大学ディスティングイッシュトリサーチャー制度は、本学の教育研究の一層の推進及び優秀な若手教員の確保に資することを目的として、令和

4年1月に創設したものです。専門分野において高い研究業績を有する本学の若手教員等に対し、称号を付与します。

なお、4名の詳細は以下のとおりです。

（総務企画部人事課）

| 所 属       | 職 名 | 氏 名     | 称号付与期間              |
|-----------|-----|---------|---------------------|
| 地球環境科学研究院 | 准教授 | 大 城 賢   | 令和8年4月1日～令和11年3月31日 |
| 理学研究院     | 准教授 | 鈴 木 悠 平 | 令和8年4月1日～令和11年3月31日 |
| 工学研究院     | 教授  | 久保田 浩 司 | 令和8年4月1日～令和11年3月31日 |
| 先端生命科学研究院 | 助教  | 山 口 諒   | 令和8年4月1日～令和11年3月31日 |



（左から）瀬戸口剛理事・副学長、山口助教、寶金総長、鈴木准教授、野口 伸理事・副学長



（左から）野口理事・副学長、大城准教授、寶金総長、久保田教授、瀬戸口理事・副学長

## 名誉教授称号授与式の挙行

先に本学名誉教授に決定された方々（43名）に対する称号授与式を6月2日（火）に学術交流会館講堂において執り行いました。

当日出席された18名の名誉教授一人ひとりに、寶金清博総長が称号を授与した後、永年にわたるご尽力に感謝の言葉が述べられました。

また、引き続きインフォメーションセンター「エルムの森」内のカフェde

ごはんににおいて、この度称号を授与された名誉教授と道内在住の名誉教授、役員、副学長、部局長との懇談の場として企画された名誉教授懇談会が文学研究院を幹事として行われました。

懇談会には、名誉教授、役員、副学長、部局長を合わせて56名が出席され、谷本晃久文学研究院長の開式の辞に始まり、寶金総長の挨拶・乾杯、本学150周年記念事業紹介、山口淳二前

理事・名誉教授及び大塚榮子元監事・名誉教授のスピーチがあった後、野口伸理事・副学長の乾杯、「都ぞ弥生」斉唱へと続き、谷本文学研究院長の閉式の辞で盛会のうちに懇談会を終えました。

（総務企画部人事課厚生労務室、文学研究院）



名誉教授称号授与式（挨拶をする寶金総長）



名誉教授称号授与式（記念撮影）



懇談会の様子（スピーチをする山口前理事・名誉教授）



懇談会の様子（スピーチをする大塚元監事・名誉教授）



懇談会の様子（都ぞ弥生斉唱）

## 第22回（令和8年度第1回）新渡戸カレッジメンターフォーラムを開催

新渡戸カレッジの大学院カリキュラムでは、北海道大学創基150周年記念事業の一環として、6月21日（日）に総合教育棟において、第22回メンターフォーラムを開催しました。当日は、対面とオンラインの併用により実施し、大学院生のみならず学部生や教職員、一般の方々など、多くの方々の参加がありました。

社会の多様な分野で活躍する方々がメンターに就任し、新渡戸カレッジ生のキャリア意識の醸成、社会的視野の広がり、及び人的ネットワークの形成にご協力いただいています。

メンターフォーラムは、新渡戸カレッジ生が大学院修了後のキャリアを見

据え、身近なロールモデルであるメンターとの交流を通じて、自身のキャリアパスをより具体的に考える機会として、夏と冬の年2回開催されています。

当日は、第1部として“Beyond Your Degree: Your Career Is More Than Your Qualification”をテーマに、4名のメンターが英語で講演を行いました。それぞれが自身の学位とキャリアの関わりや、社会での経験を通して得た学びについて紹介し、参加者が今後の進路を考える上で参考となる内容となりました。参加した学生は、体験に基づく貴重なアドバイスに強い刺激を受け、熱心に耳を傾け、質疑応答では積極的に質問を投げかけていました。

続く第2部では、学生が各メンターに自由に質問し、対話を行う交流会を実施しました。研究活動や今後本格化する就職活動に関する具体的な質問が多く寄せられ、学生は直接的な助言を得ることができました。

本フォーラムを通じて、新渡戸カレッジ生は大学院生活においてどのような姿勢で学修・研究に取り組み、将来のキャリアデザインへとつなげていくべきかについて、貴重な示唆を得る機会となりました。

（学務部教育推進課）



メンターによる講演の様子



Q&Aセッション



集合写真



メンター交流会の様子

## 新渡戸カレッジと札幌市の連携による「グローバル発展科目Ⅰ」を実施

新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院カリキュラムでは、北海道大学創基150周年記念事業の一環として、グローバル発展科目Ⅰ（課題解決の実践）を札幌市総務局国際部との連携のもとで実施しました。

本科目は、実社会の課題に取り組むプロジェクト型科目であり、今学期は「地域における多文化共生施策の推進」をテーマに展開しました。4月には、札幌市総務局国際部の担当職員が授業に参加し、外国籍住民の現状を示すデータや市が直面する具体的な政策課題について、学生へ説明しました。

学生は、システム思考をはじめとする分析手法を用いながら課題の構造を掘り下げ、8週間をかけてチームごとに解決策を練り上げました。

6月17日（水）には、最終発表会 "Sapporo Together: Designing Sustainable Community Interaction" を総合教育棟において開催し、大学院生14名が3チームに分かれ、英語で政策提案を発表しました。各チームは、外国籍住民向けの住宅支援・防災対応から地域イベントの設計、多文化共生の啓発活動に至るまで、既存の関連事業や関係団体の調査をふまえた具体的

な提案を行いました。発表後には、参加いただいた札幌市の担当職員4名との質疑応答が行われました。

札幌市からは、若い世代及び外国籍住民当事者の視点からの貴重な提案として、今後の政策検討の参考にしたいとの意向が示されました。次学期は、札幌市政企画部との連携のもと、より深い分析と検証を目指して取り組みを継続する予定です。

（学務部教育推進課）



第1チームの発表の様子



第2チームの発表の様子



第3チームの発表の様子



第3チームの質疑応答の様子

## 令和8年度北海道大学私費外国人留学生特待プログラム 留学生採用証書授与式を挙

6月11日（木）、総合教育棟において、北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙

行しました。  
同プログラムは、学業成績が優秀かつ国際的な貢献に寄与する人材を育成することを目的とし、平成20年度に開

始された制度です。大学院博士課程等に入学する私費外国人留学生を対象としており、採用する研究分野、研究課題等を明確にしたプログラムに基づき、選考し受入れを行っています。

授与式には採用者4名のうち2名が出席し、網塚 浩理事・副学長から採用

証書が授与されました。続いて、網塚理事・副学長から激励の言葉が述べられ、学生は真剣なまなざしで聞き入っていました。

（学務部学生支援課）



採用者との記念撮影



網塚理事・副学長から証書授与

## 札幌・函館両キャンパスで環境・美化活動の「キャンパス・クリーン・デー」を実施

5月12日（火）に札幌キャンパス、5月20日（水）に函館キャンパスで「キャンパス・クリーン・デー」を開催しました。

環境・美化活動として毎年実施しており、それぞれ学生・教職員が参加し

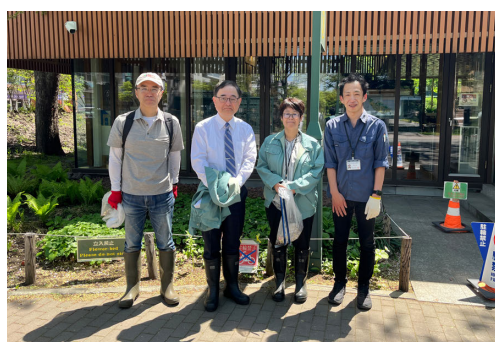
て構内や周辺の清掃活動を行いました。両日とも好天に恵まれ、札幌キャンパスでは約3,800名、函館キャンパスでは約300名が参加し、それぞれの持ち場で熱心に作業に取り組みました。今後も快適で安全なキャンパス環境

を維持するため、引き続き環境美化へのご協力をお願いいたします。

（施設部環境配慮促進課、水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



挨拶をする實金清博総長



（左から）愛甲哲也総長補佐、實金総長、石塚真由美理事・副学長、施設部環境配慮促進課菅野直樹課長



実施状況（北キャンパス周辺）



実施状況（地球環境科学院周辺）



実施状況（函館キャンパス）



# ホライズン・ヨーロッパに関するセミナー及び意見交換会を実施

6月11日（木）、駐日欧州連合（EU）代表部のヘイス・ベレンツ参事官とトム・クチンスキ科学技術部アドバイザー、一般財団法人日欧産業協力センターNCPジャパンの小田扶実子マネージャーが北海道大学を訪れ、瀬戸口剛理事・副学長、石塚真由美理事・副学長出席の下、ホライズン・ヨーロッパ（以下、「HE」という。）に関するセミナー及び本学関係者との意見交換会を行いました。

HEとは、EUが実施する研究・イノベーション分野の国際共同研究支援プログラムです。これまで、本プログラムの公募は、原則としてEU加盟国の機関を対象としており、日本の研究者は、主にEU域内の研究者からの招へいを受け、第三国の共同研究者として限定的に参加するに留まり、原則として研究費助成を受けられない状況にありました。

しかし、HEへの参画に向け、日本政府とEUとの間で日本の準参加に関す

る協定交渉が進められ、その結果、令和7年12月に実質合意に達しました。今後、同協定への署名を経て、日本の研究者は、地球規模課題の解決や産業競争力強化を目的とする主要な資金枠である「Pillar2」へ、プロジェクトコーディネーターまたは共同研究者として応募が可能となり、研究費の受給も可能となります。

この動きを受けて、駐日EU代表部より本学への訪問の申し入れがあり、今回のセミナーを開催するに至りました。

今回のHEに関するセミナー「Horizon Europe & EU Collaboration Seminar」は、ハイブリッド形式にて英語で行われ、EU加盟国との連携に関心のある教員等約50名が参加しました。冒頭、瀬戸口理事・副学長が挨拶を述べ、続いて駐日EU代表部よりHEの制度概要等について説明が行われました。その後の質疑応答では多くの質問が寄せられ、関心の高さがうかがえました。

また、意見交換会では、瀬戸口理事・副学長、石塚理事・副学長、URA、産学・地域協働推進本部を含む関係者が参加し、本学における産学連携推進の取組や、研究セキュリティに関する最近の動向が研究活動にどのような影響を与えているか等について情報を共有しました。

意見交換終了後、一行は電子科学研究所を訪問し、太田裕道所長をはじめとする研究者との意見交換を行いました。

以下でHEの概要を公表しておりますので、HEにご関心のある方はぜひご一読ください。また、特にPillar2と呼ばれる区分での応募を検討されておられる方は、国際部国際企画課までご連絡をお願いします。

Horizon Europeについて

<https://www.hokudai.ac.jp/research/research-support/research-grants/josei/guide/>

（国際部国際企画課）



瀬戸口理事・副学長による挨拶



セミナーの様子



意見交換会の様子



意見交換会参加者による記念撮影

# 北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）

北海道大学は、創基130周年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に北大フロンティア基金を創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、息の長い募金活動をするとしています。

2026年、北海道大学は創基150周年を迎えます。次の150年を見据えた記念事業のため、2023～2026年度の4年間、北大フロンティア基金は「創基150周年記念募金」として、皆様からのご寄附を募集しております。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

|                       |                   |                 |
|-----------------------|-------------------|-----------------|
| 北大フロンティア基金創設時累計       | （5月31日現在）／61,066件 | 11,493,016,773円 |
| うち、北海道大学創基150周年記念募金累計 | （5月31日現在）／24,018件 | 5,328,248,216円  |

## <ご寄附状況>

5月は341件57,200,368円のご寄附を賜りました。そのご厚志に対しまして、心より感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名を掲載させていただきます（五十音別・敬称略）。

### 寄附者ご芳名（法人等）

株式会社安藤忠雄建築研究所、エーワイハッピー株式会社、医療法人京極ようてい歯科、一般財団法人協済会、札幌村郷土記念館保存会、一般財団法人砂防・地すべり技術センター、株式会社STARS、医療法人スワンアイクリニック、有限会社平直次商店、株式会社タグチ、南陽堂書店、柏楊印刷株式会社、パナソニックホールディングス株式会社、hair salon R、ヘアシーンDIK、一般社団法人北海道医師会、北海道大学ブルーグラス研究会、ミハル通信株式会社、有限会社メディポート、医療法人社団緑葉会、re:LIGHT、ワンズフーズ株式会社

### 寄附者ご芳名（個人）

|          |       |       |                |         |       |             |                 |
|----------|-------|-------|----------------|---------|-------|-------------|-----------------|
| 合川 正幸    | 青井 良平 | 青木 俊介 | 浅沼 佳南          | 東 浩     | 足立 正  | 阿部 弘        | 阿部 雅史           |
| 安保 真一    | 家村 明宏 | 石井 哲夫 | 石岡 克己          | 井下 海翔   | 石田 晃一 | 石野 悟司       | 伊藤 桂一           |
| 伊藤 雄三    | 井上 明  | 井上 将希 | 井原 博           | 今井 四郎   | 今井 晋  | 入江 和彦       | 入澤 秀次           |
| 岩館 勇太    | 上田 一郎 | 上田 秀樹 | 上野 儀治          | 上村 桂介   | 内野 浩克 | 梅津 悠生       | 梅村恵美子           |
| 梅本 由佳    | 江波戸 謙 | 縁記 和也 | 猿渡 晴久          | 遠藤 公憲   | 大久保 剛 | 太田 正敏       | 大橋 敦子           |
| 大原 正範    | 岡田 厚夫 | 岡田 英子 | 小川美香子          | 沖崎 遼    | 尾嶋 孝一 | 小田原一史       | 小原 大和           |
| 高 敏      | 加藤 久尚 | 金川 聖也 | 金川 眞行          | 金丸 孝    | 上川 昭博 | 川村 郁子       | 河本 充司           |
| 木田 博朗    | 喜田 宏  | 木滝 俊郎 | 北村 秀智          | 衣川 暢子   | 曲 華齡  | JIN HANZHEN | GOUDARZI HOUMAN |
| 久々湊 聖    | 国本 充広 | 栗原 誠治 | 栗原 雪絵          | 黒澤 純    | 上月 浩  | 小関 成樹       | 小丹枝利昭           |
| 小林 賢人    | 小林 次郎 | 小原 恭子 | 齊藤 晋           | 齋藤 健    | 齋藤 奈央 | 齋藤 久        | 坂本 大介           |
| 崎元 大志    | 佐々木貴信 | 佐々木友志 | 佐藤壮一郎          | 三升畑元基   | 志済 聡子 | 品川 和明       | 篠原 麻美           |
| 下村 仁司    | 新藤 高士 | 菅原 新也 | 鈴木 貴之          | 曾村 尚明   | 高崎 千尋 | 高瀬登志彦       | 高橋 克郎           |
| 高橋 樹史    | 田栗 和奈 | 田中 佐織 | 田中 紀子          | 谷 佳津子   | 谷 幸政  | 田淵 卓夫       | 田村 雅彦           |
| 對馬 新     | 津田 一郎 | 堤 智紀  | 都野建二郎          | Tu Yoko | 遠山 雅博 | 土佐 紀子       | 富田 裕            |
| 豊田 威信    | 中川 和果 | 中川 光弘 | Nakazawa Kazuo | 中嶋 洋    | 中田 裕哉 | 中野 功司       | 中野 治郎           |
| 中峯アケル早矢斗 | 中村 光一 | 新美 大伸 | 西田 和代          | 西村 成子   | 西山 裕子 | 奴久妻智代子      | 布谷 和代           |
| 布谷 鉄夫    | 根本 叔治 | 橋本しおり | 長谷川周一          | 波多野隆介   | 花田 秀一 | 羽成 達幸       | 浜谷 一郎           |
| 林 祥史     | 原 啓介  | 原田 慶一 | 原田 祐司          | 半崎 貴敏   | 菱谷 一成 | 日吉 秀行       | 廣重 勝彦           |
| 福岡 英朗    | 福士 秀人 | 福嶋 香子 | 福田 信二          | 福永 悟郎   | 藤井 純也 | 藤井 治也       | 藤澤 裕子           |
| 藤田 志歩    | 藤田 正一 | 藤田 芳康 | 藤本 康男          | 古市 達哉   | 古家 乾  | 星野 恵        | 細川 嘉一           |
| 本郷 桂子    | 前田 彩子 | 増山 邦彦 | 松井 耕二          | 松原 謙一   | 松森 宏文 | 真屋 幹雄       | 三木 證永           |

|       |       |       |       |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 三谷 宏幸 | 宮田 信幸 | 三好 弘之 | 棟居 佳子 | 村上 広輝 | 村瀬徳啓充 | 本杉 一樹 | 森石 恆司 |
| 森松 組子 | 山下 順子 | 山下 裕久 | 山田 哲  | 山本 隆  | 山本 弘史 | 余湖 兼右 | 横田 信三 |
| 横山 考  | 吉岡 正俊 | 吉田 香織 | 吉田 広志 | 鷲野 弘明 |       |       |       |

## <寄附者への特典>

### 創基150周年を記念した銘板

創基150周年を記念した銘板をご用意しました。銘板は、これまでのご寄附累計金額をもとに、本学総合博物館に掲出させていただきます。個人・法人共に、ご寄附の累計が1億円以上でプレミアムゴールド、1千万円以上でゴールド、500万円以上でシルバー、100万円以上でブロンズとなります。

既存のホワイト銘板は累計20万円以上が対象です（令和2年度以前は総合博物館、令和3年度以降は百年記念会館に掲出）。なお、銘板については、年度内に賜ったご寄附の累計を取りまとめ後、翌年度9月頃を目途に掲出いたします。

※このほか、ご寄附の金額に応じ、オリジナルグッズや感謝状の贈呈、御礼の場など様々な特典をご用意させていただきます（詳細はこちらでご確認ください <https://www.hokudai.ac.jp/fund/gratitude/>）。

## <感謝状の贈呈>



株式会社ムトウ様（令和8年5月8日）



北海道大学医学部同窓会様（令和8年5月11日）



JIG-SAW株式会社様（令和8年5月19日）



株式会社Doshin EC様（令和8年5月27日）

## ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員からの寄附」にアクセスしてください。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff/>

### ①給与口座からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（給与口座からの引落）」をダウンロードし、ご記入の上、卒業生・基金室 基金事務担当に提出してください。

### ②郵便局または銀行への振り込み

卒業生・基金室 基金事務担当にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

### ③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、卒業生・基金室 基金事務担当までご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、卒業生・基金室 基金事務担当にもご用意していますので、お越しただいてからご記入いただくことも可能です。

### ④クレジットカード決済・コンビニ決済・PayPayでのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 卒業生・基金室 基金事務担当（事務局・学内電話 2017）

# モンゴル・日本人材開発センター（MOJIC）視察団が来学 北海道大学のアントレプレナーシップ教育とスタートアップ支援を紹介

5月18日（月）、モンゴル・日本人材開発センター（以下「MOJIC」という。）が主催する「北海道ビジネスツアー」の一環として、モンゴルの企業経営者、行政関係者、大学関係者らによる視察団の訪問を受け入れました。

MOJICは、日本とモンゴルの経済・産業分野における人材育成や交流促進を目的として日本のODA（政府開発援助）により設立された機関です。以来20数年にわたって技術協力を実施している独立行政法人国際協力機構（JICA）の支援のもと、モンゴルにおける起業家育成や新規事業創出、人材育成の高度化に資する取組を学ぶことを目的として、本ツアーは実施されました。

当日は、産学・地域協働推進機構ス

タートアップ創出本部アントレプレナー教育部門が、本学におけるアントレプレナーシップ教育やスタートアップ支援の取組について紹介しました。本学が主幹機関を務めるHSFC（北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク）の概要をはじめ、小中学生から大学生・大学院生までを対象とした体系的なアントレプレナーシップ教育プログラム、地域企業や自治体との連携による実践的な学習機会、海外派遣や国際交流を通じたグローバル人材育成の取組などについて説明を行いました。

また、学生による活動紹介や意見交換も実施しました。参加者からは、大学におけるスタートアップ支援の仕組みや、若い世代を対象としたアントレ

プレナーシップ教育について多くの質問が寄せられ、活発な意見交換が行われました。

視察団は本学のほか、STARTUP HOKKAIDOをはじめとするスタートアップ支援機関や自治体、企業なども訪問し、北海道におけるスタートアップ・エコシステムや地域創生の取組について視察しました。

今回の訪問は、本学のアントレプレナーシップ教育やスタートアップ支援に関する取組を海外へ発信するとともに、モンゴルと北海道との今後の交流・連携の可能性について意見交換を行う貴重な機会となりました。

（産学・地域協働推進機構）



本学訪問時の様子



インキュベーション施設HX（フード&メディカルイノベーション国際拠点内）の視察



学生によるピッチ



集合写真

## 産学・地域協働推進機構が台湾・国立清華大学とMOUを締結 サステナビリティ分野における次世代アントレプレナーの育成へ

5月28日（木）、産学・地域協働推進機構は、台湾の国立清華大学サステナビリティ学部との間で、「持続可能な食料システム、再生型農業、生態系レジリエンスの分野におけるスタートアップ創出及びアントレプレナーシップ志向人材育成の推進に関する覚書（MOU）」を締結しました。

調印式では、本学理事・副学長の瀬戸口剛機構長と、国立清華大学サステナビリティ学部の范建得学部長が協定書に署名し、今後の連携強化に向けた意見交換を行いました。

本協定は、気候変動や生物多様性の損失、食料安全保障などのグローバル

な課題に対応するため、持続可能な食料システムや再生型農業、生態系レジリエンスに関する領域におけるアントレプレナーシップ教育やスタートアップ創出を通じた次世代の人材育成を目指すものです。

具体的には、共同授業やワークショップ、フィールド型学習プログラムの実施、学生・教職員の交流、スタートアップ創出に関する学習機会の提供、共同シンポジウムやフォーラムの開催など、多様な連携活動を展開していく予定です。

国立清華大学は台湾を代表する研究大学の一つであり、近年はサステナビ

リティ教育やイノベーション人材育成にも力を入れています。本学においても、アントレプレナーシップ教育やスタートアップ支援を通じて、社会課題の解決に挑戦する人材育成を推進しており、両大学の強みを生かした協働が期待されます。

今回の協定締結を契機として、東アジア地域における国際連携をさらに強化し、サステナビリティとイノベーションの両面から社会課題の解決に取り組むグローバル人材の育成を進めてまいります。

（産学・地域協働推進機構）



MOUに署名する瀬戸口機構長（左）と范学部長（右）



関係者による集合写真

## 地域と連携した本学のグリーン人材育成の取組を環境省主催の検討会で紹介

6月12日（金）、環境省及び公益財団法人地球環境戦略研究機関（IGES）が共催する「第1回 大学等における持続可能な地域づくりの担い手育成検討会」がオンラインで開催され、本学から石塚真由美理事・副学長及び横田 篤副学長が話題提供者として招待されました。本学が長年にわたり推進してきた地域と連携したPBL（Project-Based Learning：課題解決型学習）やグリーン人材育成の取組を紹介し、地域脱炭素化と持続可能な地域づくりを担う人材育成のあり方について知見を提供しました。

本検討会は、地域脱炭素に向けた大学におけるPBL実践の促進を目的とし、本年度に全5回開催予定です。本学では、学生が地域の多様な主体と協働しながら実践的に学ぶ教育を重視し、地域社会と大学をつなぐ教育研究活動を積極的に展開しています。こうした先進的な取組と実績が評価され、本学が初回の話題提供を務めました。

検討会では、最初に横田副学長から、本学の広大な研究林やキャンパスの一部がOECD国際データベースに登録されるなど、生物多様性保全への取

組が国際的にも評価されていることを紹介しました。また、こうした豊かなフィールド資産を活用し、多様なステークホルダーと連携しながら、学生に加え、市民や小中高生を対象としたグリーン人材育成のための教育プログラムを開発・提供していることを説明しました。座学とアウトドア型アクティブラーニングを組み合わせ、バーチャルではなく実際の自然環境に触れる機会を提供する教育手法の有効性についても発信しました。

次に、石塚理事・副学長から、本学が地域との長年にわたる信頼関係を基盤に教育研究活動を展開している事例として、創立100年を迎えた和歌山研究林の取組を紹介しました。地域と連携したフィールドベースの教育研究活動を継続的に実施し、その成果として、平成30年には和歌山県古座川町と研究林との包括連携協定を締結するなど地域課題の解決と人材育成を両立する協働体制を構築してきたことを説明しました。

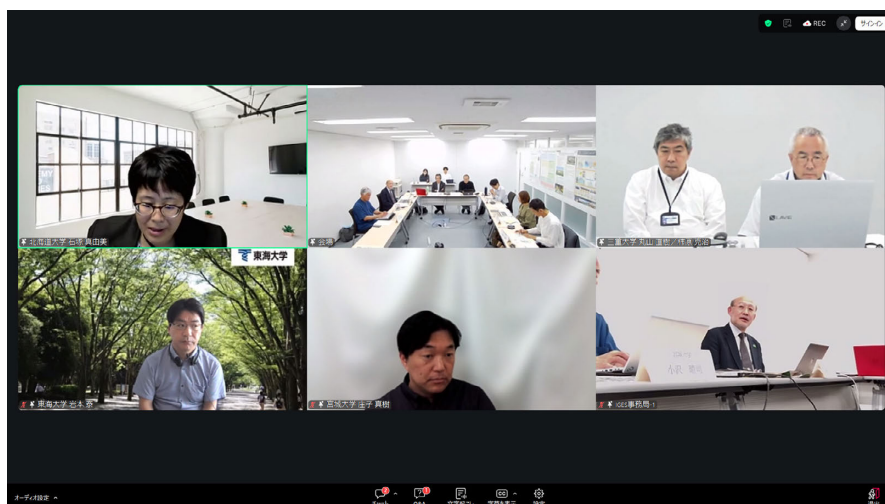
さらに、本学が平成28年から全学的に実施している「Hokkaidoサマー・インスティテュート」を通じて、持続

可能な地域づくりを担う人材の育成を推進していることを紹介しました。同プログラムでは約150の科目を社会人も受講可能とし、リカレント教育の機会を提供しています。多くの科目で地域をフィールドとしたPBLを実践しており、学生や社会人が地域の実課題に向き合いながら学ぶ機会を創出しています。また、全学的な支援体制の整備を進めることで、学内におけるPBLへの理解と実践を着実に拡大していることを発信しました。

その後、本学が提供した事例や知見を踏まえ、検討会では、PBLが学習者のコンピテンシー向上にどのように寄与しているかを可視化・評価するための指標整備の必要性について議論が行われました。

サステナビリティ推進機構では、今後も本学が培ってきた知見などを広く社会に発信し、脱炭素化、生物多様性保全及び資源循環といった複合的な課題に対応できるグリーン人材の育成に貢献してまいります。

（サステナビリティ推進機構）



検討会の様子（左上：本学の取組を発表する石塚理事・副学長、右下：横田副学長）

# THEサステナビリティインパクトレーティング2026 総合ランキング世界7位・7年連続国内1位を獲得

6月24日（水）、イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education（THE：ティー・エイチ・イー）」は、「THEサステナビリティインパクトレーティング2026」を発表しました。本学は、総合ランキングの評価対象となった世界1,603大学中、過去最高順位の世界7位にランクインするとともに、7年連続国内1位（評価対象30大学）を獲得しました。

THEサステナビリティインパクトレーティングは、気候変動に対する活動やジェンダーの平等、健康と福祉など、大学の社会貢献の取組を国連のSDGsの枠組みを用いて評価するものです。2019年に「THEインパクトランキ

ング（THE Impact Rankings）」として開始され、2026年から「THEサステナビリティインパクトレーティング（THE Sustainability Impact Ratings）」へ名称が変更されました。

SDG別ランキングにおいては、17のSDG目標のうち、「SDG2 飢餓をゼロに」が世界731大学中2位と高い評価を受け、2年連続世界2位を維持しました。また、「SDG9 産業と技術革新の基盤をつくろう」（世界36位）、「SDG11 住み続けられるまちづくりを」（同41位）、「SDG14 海の豊かさを守ろう」（同21位）、「SDG15 陸の豊かさを守ろう」（同18位）、「SDG16 平和と公正をすべての人に」（同21位）、「SDG17

パートナーシップで目標を達成しよう」（同31位）が世界100位以内にランクインしました。このうち、SDG2・SDG11・SDG14・SDG15・SDG16・SDG17の6目標がいずれも国内1位となり、SDG2・SDG14・SDG16・SDG17は2年連続、SDG15は5年連続で首位を維持しました。さらに、「SDG7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに」及び「SDG12 つくる責任 つかう責任」においても、国内他大学と並び国内1位となりました。

（サステナビリティ推進機構、  
統合URA本部）



THEサステナビリティインパクトレーティング2026で世界7位を獲得



世界7位を称えた賞状

## Rapidus社CTO×北大教授陣による講演・座談会の開催

半導体フロンティア教育研究機構（IFERS／アイファース）は、6月2日（火）に、Rapidus株式会社の技術部門トップをお招きし、「本音で語ろう北大の半導体」と題して半導体の最前線を報告するシンポジウムを開催しました。このイベントは、大学院共通科目「半導体研究の最前線を知る～北大が描く未来の設計図」の第1回の講義を兼ねて実施し、学术交流会館を会場としてオンラインも含めたハイブリッド形式にて行われました。

オンラインを含め350名を超える多くの学生や一般の方々が傾聴する中、Rapidus株式会社の最高技術責任者である石丸一成氏から「半導体が拓く未来と北海道大学への期待」をテーマに、半導体技術の最前線や今後の産業動向に加え、大学への人材育成や研究面での期待について講演が行われまし

た。石丸氏は、半導体を取り巻くエコシステムの構築に向け、色々な学問からアプローチし、半導体を通じて人々に貢献できると話し、学部を問わず半導体分野に関心をもってほしいと呼びかけました。また、学生に向けて「北大のフロンティア精神を活かし、『蛙』のように一度世界へ飛び出し、経験を積んで再び北海道に戻り、次世代の半導体産業を担う人材として活躍してほしい」と激励しました。

続いて、半導体フロンティア教育研究機構半導体研究開発戦略室長の秋永広幸教授が、日本の半導体復興に向けた課題認識とともに、同大学における研究の現状と展望を紹介しました。

講演後、石丸氏、秋永教授に加え、工学研究院の太田泰彦特任教授、島田敏宏教授、文学研究院の田口 茂教授、情報科学研究院の浅井哲也教授ら

6名による座談会が行われました。技術・産業の枠を超え、人文・社会的観点も含めた多角的な議論が展開され、総合大学としての強みである文理融合の知見を背景に、半導体の社会的価値やあるべき姿について活発な意見交換が行われました。研究者らは、見えない世界を扱う半導体開発の難しさや、異分野の知が交差することで生まれる発想の飛躍や新たなアイデアを創出する「妄想力」の大切さを強調しました。学生には、失敗を恐れずに海外経験や多様な人との議論を通じて視野を広げ、北大ならではの学際環境を活かして成長してほしいとメッセージが送られました。

（半導体フロンティア教育研究機構）



講演する石丸氏



座談会の様子

# 半導体に命を吹き込み、未来を切り拓く —北海道大学が半導体ビジョンとIFERSミッションを公表—

半導体フロンティア教育研究機構（IFERS／アイファース）は、6月2日（火）、北海道大学が描く「半導体ビジョン」について公表しました。公表は寶金清博総長から自らの言葉で初めて示され、持続可能なWell-being社会の実現に向けた展望が語られました。続いてIFERSの石森浩一郎機構長からその実現に向けた行動指針である「IFERSミッション」について説明がありました。

寶金総長は、「ここ数十年の間で半導体が驚異的なスピードで劇的に世界を変えてきました。半導体でどういう社会を目指すのか、どういう人を育てたいのかということ、北大として示していく必要があります」と説明し、全学ビジョンである「HU VISION 2030」と連動して、効率や生産性だけではなく価値を見据え、人の「温かみ」を

持った半導体が活躍するWell-being社会の実現を目指すとししました。また半導体研究でリードしている大学は他にもあるものの、総合大学ならではの知見、北海道大学特有の多様な環境を活用して新しい発想でユースケースを開発し、半導体を使う分野において優位性を発揮できると強調し、北海道大学だからこそ可能な新しい産学連携や社会貢献の形を作る半導体の未来について語りました。

続いて、IFERSの石森機構長より、IFERSについて北海道大学全体の半導体に関する方針の策定や、半導体教育、産学連携を推進するヘッドクォーター組織であると説明がありました。「半導体はつくるだけではなく、どう使うかが重要です。北海道の地域課題は、新しいユースケースになる可能性があります。人・大学・産業・地域・

世界を結び、半導体のエコシステムを形成します」と語りつつ、「IFERSミッション」を発表しました。半導体ビジョンの実現に向け、「つくる」「つかう」「つなぐ」という三つの観点から、人材育成と研究を推進していくためIFERSの役割が示されました。

本イベントは、同日に開催した第1部「半導体の最前線を報告するシンポジウムー本音で語ろう北大の半導体ー」の第2部として引き続き開催したもので、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催され、第1部に参加した学生、企業関係者、市民ら約350人が引き続き参加し、改めて北海道大学の半導体分野への関心度の高さをうかがえる場となりました。

（半導体フロンティア教育研究機構）



発表する寶金総長



学生から質問を受ける様子

# 北海道大学「北大道新アカデミー」2026年度前期プログラムを開催

教育イノベーション機構教育開発センターリカレント教育ユニットは、北海道新聞社との包括連携協定に基づいて、主に学外の社会人を対象とした教育プログラム「北大道新アカデミー」を運営しています。「北大道新アカデミー」は、北海道大学が提供する、リカレント教育プログラムの一つに位置づけられています。2026年度前期の北大道新アカデミーは、4月11日（土）～5月30日（土）に、理系・文系の2コース、各6回を、総合教育棟を会場に、対面で開講しました。各コースの初回では寶金清博総長からのビデオメッセ

ージを放映しました。  
理系コースは工学研究院の研究者が講義を行いました。テーマは「フロンティアエンジニアリング―未踏の領域を切りひらく技術」です。ドローンやロボット、自動運転技術の開発、北海道での二拠点生活の可能性、物流を担う船舶の航行、半導体の開発、気候変動予測など、北海道大学の最先端の研究と、その応用に関する講義が行われました。  
文系コースはメディア・コミュニケーション研究院の研究者が「観光・メディア・ことばで編む地域の物語」を

テーマに講義を行いました。聖地巡礼、樹木葬、北海道の観光、言語政策、聴く観光、ヘリテージ・スタディーズをテーマにした、メディア・コミュニケーション研究院ならではの講義が展開されました。  
前期の北大道新アカデミーの講座受講者数は理系コース52名、文系コース42名でした。講義の詳細は、リカレント教育ユニットのウェブサイトに掲載しています。  
<https://reh.grad.hokudai.ac.jp/>  
(教育イノベーション機構)

2026年度北大道新アカデミー前期 講義タイトル・講師

|     | 理系コース                        |                                               | 文系コース               |                                                                   |
|-----|------------------------------|-----------------------------------------------|---------------------|-------------------------------------------------------------------|
|     | フロンティアエンジニアリング―未踏の領域を切りひらく技術 |                                               | 観光・メディア・ことばで編む地域の物語 |                                                                   |
| 回   | 日 程                          | 講義タイトル・講師                                     | 日 程                 | 講義タイトル・講師                                                         |
| 第1回 | 4月11日（土）                     | 3次元地図とロボットで支える未来社会<br>工学研究院 江丸貴紀 准教授          | 4月11日（土）            | 聖地を創る観光メディア<br>―サンティアゴ大聖堂から石の教会まで<br>メディア・コミュニケーション研究院<br>岡本亮輔 教授 |
| 第2回 | 4月18日（土）                     | 積雪寒冷地における住生活の未来<br>工学研究院 野村理恵 准教授             | 4月18日（土）            | 樹木葬が映す現代社会<br>メディア・コミュニケーション研究院<br>上田裕文 教授                        |
| 第3回 | 4月25日（土）                     | 泡による船舶の抵抗低減<br>海から取り組むクリーン技術<br>工学研究院 朴 炫珍 助教 | 4月25日（土）            | 我が国と北海道における観光の在り方<br>メディア・コミュニケーション研究院<br>神山裕之 教授                 |
| 第4回 | 5月16日（土）                     | 半導体の地政学<br>工学研究院 太田泰彦 特任教授                    | 5月16日（土）            | 言語観がつくる社会 組織・地域の言語政策<br>メディア・コミュニケーション研究院<br>大友瑠璃子 准教授            |
| 第5回 | 5月23日（土）                     | ナノサイズ半導体の物理<br>―光でスピンを見る・操る<br>工学研究院 鍛冶怜奈 准教授 | 5月23日（土）            | 聴く観光メディア論<br>―一音が紡ぐ地域の語り<br>メディア・コミュニケーション研究院<br>葛西 周 准教授         |
| 第6回 | 5月30日（土）                     | 風水害リスクがもたらす影響と、私たちが活かせる可能性<br>工学研究院 山田朋人 教授   | 5月30日（土）            | ヘリテージ・スタディーズと観光<br>―持続可能な連携<br>メディア・コミュニケーション研究院<br>田代亜紀子 准教授     |

※会場：総合教育棟（N1：第1～3回、N304：第4～6回）  
理系コースの開講は13:30～15:00、文系コースの開講は15:30～17:00

## ■ 部局ニュース

### 経済学部成績優秀者表彰式を挙行

6月4日（木）、経済学研究院研究棟にて、経済学部「成績優秀者表彰制度」による表彰式を行いました。

「成績優秀者表彰制度」は、前年度1年間の履修科目において優秀な成績を修めた学生の中から、学生の模範となるような成績優秀者を選考・表彰するとともに、Dean's List（成績優秀者

名簿）に登載し、末永く、その努力と名誉を讃えることを目的としています。本年度は3年次学生10名、4年次学生10名の計20名が選出されました。

表彰式では、久保淳司学部長から受賞者へ表彰状と副賞が授与され、激励の言葉が述べられました。引き続き行われた懇親会では、出席者が親睦を深

めました。

経済学部では、今後も学生の学習意欲向上を促すための取組みを行っていく予定です。

（経済学部）



久保学部長（前列中央）と本年度の受賞者

## 経済学部「グローバル・チャレンジ賞（横山和子賞）」表彰式を挙

6月25日（木）、経済学研究院研究棟にて、経済学部「グローバル・チャレンジ賞（横山和子賞）」の表彰式を行いました。

本賞は、経済学部卒業生である横山和子氏からの寄附により令和7年度に創設された賞で、一定の学業成績要件を満たした学部学生のうち、TOEFL-iBTで優秀なスコアを取得した者を表彰することにより、海外留学を促進するこ

とを目的としています。今年度は経済学科4年の阿部僚祐さん、渡辺健太クリストファーさんと経済学科3年の山岸風花さんが選出されました。表彰式では、横山氏及び受賞者の指導教員列席のもと、久保淳司学部長から受賞者へ表彰状が授与され、その後、横山氏から記念品として著書が手渡されました。

引き続き行われた懇親会では、横山氏が国際公務員として国連機関で勤務

された経験や、本学在学中の思い出を交えながら、受賞者へ祝福と激励の言葉を述べられました。

経済学部では、今後も学生の語学力向上や海外留学を促すための取組みを行っていく予定です。

（経済学部）



横山氏（前列中央）、久保学部長と本年度の受賞者

## 医学研究院で研修会「研究活動におけるAIの適切な利用法」を開催

医学研究院は6月15日（月）、医学部学友会館フラテホールにおいて、研修会「研究活動におけるAIの適切な利用法」を開催しました。本研修会は対面とWeb配信を併用したハイブリッド形式で実施され、Web参加者を含め約70名の教職員、研究者及び学生が参加しました。

本研修会は、科研費等の外部資金申請書や学術論文、学会発表資料の作成など、研究・教育活動におけるAIの適切な利用方法の理解を目的として開催されたものです。

当日は、医学研究院の矢部一郎副研究院長から開会の挨拶が行われた後、医学研究院画像診断学教室の工藤興亮教授及び統合URA本部の吉田篤司URA

が講演を行いました。

工藤教授は、生成AIを研究時間確保のための実務的ツールとして活用することを中心に、事務作業や資料作成などの効率化により研究に集中できる環境を整える重要性について説明されると共に、AIは試行しながら使いこなすことが重要であり、情報漏えいや誤情報への対応など適切な利用ルールを踏まえつつ、最終的な判断は研究者自身が担うべきであることを示されました。

一方、吉田URAは、生成AIの利用による研究業務の効率化と精度向上に活用する方法について説明され、複数のAIを使い分けながら適切に活用することの重要性や、AIに作業を全て任せるのではなく、利用者が確認・判断を行

う必要性を説明されるとともに、適切な活用には自身の研究分野に関する専門知識が不可欠であることを示されました。

各講師による講演と質疑が行われた後、武富紹信研究戦略室長より閉会の挨拶があり、本研修会は終了しました。

本研修会は、生成AIの急速な発展を踏まえ、研究・教育活動における実践的な活用方法と留意事項について理解を深める有意義な機会となり、今後の研究活動の推進に寄与するものと期待されます。

（医学研究院）



講演を行う工藤教授（左）と吉田URA（右）

## 令和8年度医理工学院博士後期課程中間発表会を開催

医理工学院は、6月17日（水）に医学部百年記念館において、博士後期課程中間発表会を開催しました。

本発表会は、医理工学院の学生が日頃の研究成果を発表する場であるとともに、本学院の教育活動や研究成果等を広く発信することを目的としています。修士課程1年生を対象とした秋の発表会に加え、博士後期課程2年生を対象とする中間発表会を初夏に開催する取り組みは今年度で3回目となります。

発表は、対面形式を基本とし、リアルタイム配信との併用によるハイフレックス型で実施されました。当日は、発表者5名に加え、その他の学生・教職員32名、企業7社（うちオンライン参加2社）からの参加があり、本学院への関心の高さがうかがえる機会となりました。

医理工学院では、学生一人ひとりに異なる分野の指導教員を2名配置し、

医学、理学、工学、保健学、生物学などの多分野が融合した領域において、質の高い研究及びその成果発表が適切に行えるよう指導体制を整えています。

今回発表を行った博士後期課程2年生は、これまでの研究成果をもとに意欲的な発表を行い、いずれも今後の発展が期待される内容でした。さらに、修士課程の学生も聴講者として参加し、先輩学生の発表や質疑応答の様子から多くを学び、研究者としての視野を広げる機会となりました。本発表会が学生の研究意欲向上につながることを期待されます。

参加いただいた企業からは、各発表に対して高い評価をいただくとともに、「学生の発表は大変興味深く、落ち着いてわかりやすく伝える様子が印象的であった」「例年参加しているが、毎回新たな発見があり、来年度の開催も楽しみにしている」といった感想が

寄せられました。また、「今後は自社の研究活動等も紹介し、学生の関心を高めるような形で関わっていきたい」との前向きなご提案もいただき、本発表会が産学連携の観点からも有意義な機会であったことがうかがえました。

また、発表プログラムの合間に設けられた昼時間帯のインターバルを活用し、医学研究院医理工学グローバルセンター主催による企業との交流会も開催され、学生、教員、企業代表者の間で活発な意見交換が行われました。

来年度以降も本中間発表会及び企業との交流の機会を継続し、医理工学院の教育・研究活動のさらなる充実と発展につなげてまいります。

（医理工学院）



会場の様子

## 獣医学部におけるEAEVE認証継続のための本審査の実施

獣医学部は2012年より帯広畜産大学と共同で獣医学課程を設置し、世界水準の獣医学教育を継続的に実施してきました。また、本学部の教育が国際的水準にあることを担保するため、2019年には海外の獣医学教育評価機関であるEAEVE\* (European Association of Establishments for Veterinary Education) の認証を取得しています。このたび、同認証の維持に必要となる7年ごとの本審査を受審し、6月15日(月)～19日(金)に、現地査察が実施されました。査察は、15日(月)～17日(水)まで帯広畜産大学で、18日(木)・19日(金)は本学部で行われました。EAEVE本部が任命した欧州各国の獣医師等8名がサイトビジター

として来日し、審査にあたりました。

本学部での審査は、網塚 浩理事・副学長による挨拶及び北海道大学の概要説明に始まり、教育・研究施設の視察や関係者へのインタビューを中心に進められました。サイトビジターは附属動物病院、実習室、動物実験施設等を訪問し、教育内容や運営体制について詳細な確認が行われるとともに、教職員、学生、卒業生への聞き取りを通じて実態の把握が行われました。

最終日には総評が発表され、両大学の強みを活かした補完的かつ高度な獣医学教育の継続的な実施について高い評価を受けました。なお、本審査の最終結果は、9月28日(月)に開催されるECOVE (European Committee of

Veterinary Education) 会議において決定され、後日通知される予定です。

EAEVEウェブサイト:

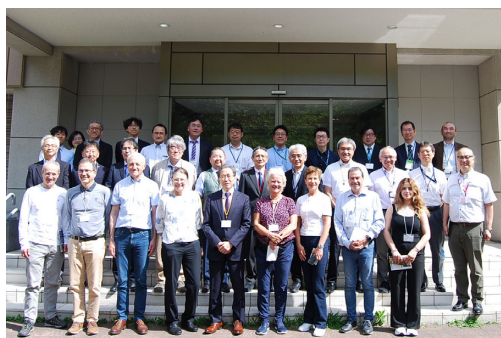
<https://www.eaeve.org/>

北海道大学・帯広畜産大学 共同獣医学課程ウェブサイト:

<https://www.vetmed.hokudai.ac.jp/study/vnj/>

\* EAEVE: 欧州の獣医学教育機関が加盟する協会であり、EU指令2005/36/ECに基づく教育評価を実施している。主にEU及び周辺国を対象としている、その他地域においても、大学からの申請に基づき教育の質を評価している。

(獣医学部)



集合写真 (網塚理事・副学長: 1列目中央、  
迫田義博研究院長: 2列目中央)



附属動物病院について説明する滝口満喜病院長



臨床実習について説明する山崎真大教授



スキルスラボを視察するサイトビジター

## 環境科学院で北大祭・研究施設公開「環境科学を体験しよう!!」を開催

環境科学院では、6月7日（日）に北大祭・研究施設公開「環境科学を体験しよう!!」を開催しました。

当日は、延べ193名が来場し、各ブースは大変な賑わいを見せました。未就学児や小学生の親子連れをはじめ、一般の方々など幅広い層の来場があり、多様な年齢層の方々に環境科学の魅力を発信する貴重な機会となりました。

今回の企画では、「環境科学を体験しよう!!」と題し、環境サイエンスパ

フォーマンス・展示を6件行いました。「雲をつくろう・雲のひみつ」では雲ができる仕組みを実演し、「深海底に落ちていた化石を拾ってみよう」では顕微鏡を見ながら実際に化石の殻を拾う体験を行うなど、実験を通じて環境科学を体験できるブースが人気を集めました。

また、来場者アンケートでは、「体験できて、知らないことを教えてもらえることで、更に興味が湧いて、とて

も楽しかった」「実験が楽しかったのと、解説がとてもわかりやすかった」「子どもが興味を持って体験できてよかった」などといった高い評価をいただきました。

今後もアンケートの結果を踏まえながら、より多くの方々に楽しんでもらえるよう内容の充実に努めてまいります。

（環境科学院）



「雲をつくろう・雲のひみつ」の様子



「深海底に落ちていた化石を拾ってみよう」の様子

# スラブ・ユーラシア研究センター公開講座「ロシアと中東」を開催

5月11日（月）～6月1日（月）の毎週月・金曜日に、恒例の公開講座をオンラインで開催しました。今回は、北海道大学創基150周年記念事業の一環として、過去150年を「長い20世紀」と捉え、その中でロシアと中東がどのような位置を占め、両者の関係がどのように変化してきたか、そしてその変化がいかに世界を動かしてきたかについて考えました。スラブ・ユーラシア研究センターから2名のほか、日本を代表する5名の研究者が登壇しました。

ロシアと中東にはユダヤ教、キリスト教、イスラームを信仰する諸民族がまたがって住み、相互に移動と参照を繰り返してきたため、二つの世界の歴史は絡まり合っています。公開講座では、ロシアと中東の間の中央アジア、かつて長い国境を接したイラン、19世紀後半からユダヤ教徒やロシア正教徒が移住したシリアやパレスチナ、東方正教会でつながるセルビア・ロシア・ウクライナ、社会主義でつながるイラクを取り上げました。

折しもイスラエルと米国のイラン攻撃とホルムズ海峡の閉鎖でわが国の石油危機に世論の関心が高まっていた中、公開講座には、のべ909人の参加がありました。

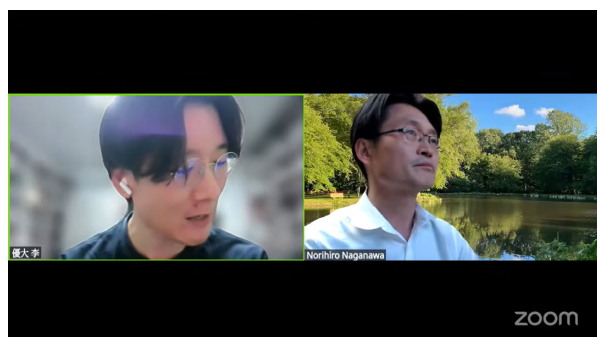
今年度の公開講座の内容は、YouTubeで期間限定で配信しています。

<https://src-h.slav.hokudai.ac.jp/jp/open/index.html>

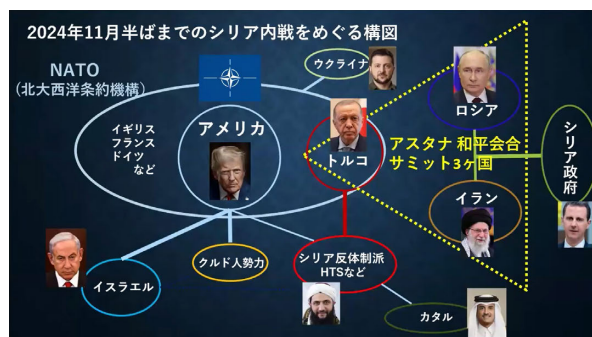
（スラブ・ユーラシア研究センター）

## 2026年度 公開講座「ロシアと中東」

- 第1回 なぜロシアと中東か：世界の裏側から訪れる危機の正体 長縄宣博（スラブ・ユーラシア研究センター）
- 第2回 ソ連／ロシアとパレスチナ問題 鶴見太郎（東京大学）
- 第3回 イスラーム・ヴェール言説の歴史的展開：ロシア帝国から現代ウズベキスタンまで 帯谷知可（京都大学）
- 第4回 ソビエト外交とイラン共産党：スルタンザーデとピーシェヴァリーの事例から  
李 優大（スラブ・ユーラシア研究センター）
- 第5回 シリア内戦からイスラエルの対イラン・レバノン戦争へ：国際的環境とロシア 黒木英充（東京外国語大学）
- 第6回 東方正教ナショナリズムとウクライナ戦争 佐原徹哉（明治大学）
- 第7回 ソ連（ロシア）・共産党・アラブ左派ナショナリズムの三角関係史 酒井啓子（千葉大学）



初回の様子



講演する黒木氏のスライドより

ソ連崩壊後 1991-2003年  
武器供給、外交的協力



講演する酒井氏のスライドより

# 博士学位記授与

6月30日（火）に本学大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士は42人、及び本学に学位論文を提出してその審査、試験等に合格した論文博士は6人でした。なお、被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

(学務部学務企画課)

## 課程博士

| 博士の専攻分野の名称 | 博士の学位を授与された者             | 博 士 論 文 名                                                                                                                                                                                                                                       |
|------------|--------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|            | 氏 名                      |                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 博士（法学）     | ゴ 呉 子迪                   | 試験・研究のための特許発明の実施をめぐる諸制度の在り方 ―特許権者と一般公衆の利益の調和と予測可能性の観点からの中日米の比較法的分析―<br>主査：教授 中山 一郎                                                                                                                                                              |
| 博士（農学）     | リー アーン 李 昂               | Characterizing typhoon-disturbed biomass dynamics using multitemporal airborne laser scanning and imagery, and deep learning in cool-temperate forest of northern Japan<br>（北日本の冷温帯林における複数時期の航空レーザ計測・写真と深層学習を用いた台風攪乱後バイオマス動態の解明）<br>主査：教授 平野 高司 |
| 博士（生命科学）   | いのこ まさや 猪子 雅哉            | Route-dependent principles of proliferative regulation following whole-genome duplication<br>（全ゲノム倍加の形成経路依存的な増殖性制御原理の解明）<br>主査：准教授 上原 亮太                                                                                                        |
|            | たけい しほ 武井 梓穂             | Molecular and biophysical basis of cycloisomaltooligosaccharide recognition by a solute-binding protein<br>（solute binding proteinによる環状イソマルトオリゴ糖認識の生物物理学的分子基盤）<br>主査：教授 尾瀬 農之                                                                   |
|            | まつうら あきら 松浦 暉            | An optochemical approach to elucidate the consequences of transient mitotic errors during zebrafish early development<br>（ゼブラフィッシュ初期発生における光応答性試薬を用いた一過的な有糸分裂異常の影響の解明）<br>主査：准教授 上原 亮太                                                           |
|            | ロ メグミ 呂 恵                | Study on the hair plate proprioceptors in antennal mechanosensory system of crickets – Developmental and neuroanatomical perspectives –<br>（コオロギ触角機械感覚システムにおける毛板自己受容器の研究 –発生学的、神経解剖学的観点から–）<br>主査：教授 小川 宏人                                      |
| 博士（観光学）    | まつだ やすあき 松田 泰明           | 観光資源としての道路景観のマネジメントに関する研究―とくにシークエンス景観に着目して―<br>主査：教授 上田 裕文                                                                                                                                                                                      |
|            | トゥテイ TUTI エル フリダ ELFRIDA | Traditional Custodianship and <i>Adat</i> in Tourism: A case of Baduy Community, Indonesia<br>（観光における伝統的カストディアンシップとアダット：インドネシアのバドゥイ・コミュニティを事例として）<br>主査：教授 エデルヘイム・ヨハン・リチャード                                                                     |
|            | ベク スン エ 白 承愛             | 植民地建築の保存活用と観光―韓国の大邱市を事例として<br>主査：教授 田中 英資                                                                                                                                                                                                       |
|            | しんかい あかね 新海 茜            | 移動が再編する地域社会―ニセコエリアにおける社会的包摂・排除、制度・政策、地域アイデンティティ―<br>主査：教授 山村 高淑                                                                                                                                                                                 |
| 博士（工学）     | リ ソー 李 聡                 | The Effects of Cr, Nb and Ti Additions on the Oxidation Behavior of Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> -Forming Ferritic Stainless Steels<br>（Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> スケール形成フェライト系ステンレス鋼の酸化挙動に及ぼすCr、NbおよびTi添加の影響）<br>主査：教授 林 重成              |
|            | なか せ こうた 中瀬 皓太           | 三次元積層過程が支配するセメント系硬化体の力学的異方性と空隙の位相幾何学的連結性<br>主査：教授 杉山 隆文                                                                                                                                                                                         |

| 博士の専攻分野の名称 | 博士の学位を授与された者                                                          | 博 士 論 文 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|------------|-----------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|            | 氏 名                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 博士（工学）     | マ ハ ム フ ド<br>MAHMOOD<br>ウ ル ハ サ ン<br>UL HASSAN<br>ム ハ マ ド<br>MUHAMMAD | Dynamic Frequency-Dependent Soil-Pile-Structure Interactions in Damage-Controlled Bridge Piers with Different Foundation Systems and Their Incorporation into a Response Displacement-Based Seismic Design Framework<br>（異なる基礎形式を有する損傷制御型橋脚における周波数依存的な地盤-杭-構造物動的相互作用の解明と応答変位法に基づく耐震設計フレームワークへの拡張）<br>主査：准教授 磯部 公一 |
|            | ア マ ト ウ ル ヘ イ<br>AMATULHAY<br>プ リ バ デ イ<br>PRIBADI                    | Numerical Analysis of the Fatigue Behaviors and Failure Mechanisms of Repaired RC Slabs with UHPFRC under Moving Wheel Loads<br>（UHPFRCで補修されたRC床版の移動輪荷重下における疲労挙動および破壊機構の数値解析）<br>主査：教授 松本 高志                                                                                                                      |
| 博士（理学）     | コ ン ドウ<br>近藤 翔哉                                                       | Theoretical Studies on Organic Molecular Crystal Phase Transition and Thin-Film Formation Processes via Automated Reaction Path Exploration for Periodic Systems<br>（周期系反応経路自動探索法を用いた有機分子結晶相転移および薄膜形成過程に関する理論的研究）<br>主査：教授 長谷川 淳也                                                                                 |
|            | タ ド コ ロ<br>田所 朋樹                                                      | Experimental and Theoretical Studies on Structural Dynamics and Redox Properties of Nonplanar $\pi$ -Conjugated Systems<br>（非平面型 $\pi$ 共役系分子における構造変化ダイナミクスと酸化還元特性に関する実験的および理論的研究）<br>主査：特任教授 谷野 主持                                                                                                                |
| 博士（工学）     | ジ ャ ン<br>張 聰                                                          | Metal-Hydride-free Colloidal Synthesis of $\text{InP}_{1-x}\text{Sb}_x$ Quantum Dots Using Aminophosphine for Optoelectronic Applications<br>（オプトエレクトロニクス素子創製へ向けた $\text{InP}_{1-x}\text{Sb}_x$ 量子ドットのアミノホスフィンを用いた金属水素化合物フリーコロイド合成）<br>主査：教授 松井 雅樹                                                                |
|            | チ ェ ン<br>陳 鐸天                                                         | Machine-Learning-Assisted Development and Mechanistic Investigation of Multi-Elemental Reverse Water-Gas Shift Catalysts<br>（機械学習を活用した多元素逆水性ガスシフト触媒の開発および反応機構解明）<br>主査：教授 長谷川 淳也                                                                                                                                  |
|            | の わ ら<br>野村 耕作                                                        | 寒冷地における炭素鋼の大気腐食反応に関する研究<br>主査：教授 島田 敏宏                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 博士（経営学）    | は た な か<br>晶中 貴幸                                                      | 企業統治が税制選択並びに企業パフォーマンスに及ぼす影響に関する実証分析<br>主査：教授 亀岡 典之                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 博士（医学）     | い え さ か<br>家坂 光                                                       | 高中性脂肪血症合併成人成長ホルモン分泌不全症における脂質および肝代謝に対するペマフィブラートの効果-前向き観察研究-<br>主査：教授 伊藤 陽一                                                                                                                                                                                                                                         |
|            | か ね こ<br>金子 直哉                                                        | 陽子線治療による小児髄芽腫患者の治療後内分泌障害の軽減：単施設後ろ向き研究<br>主査：教授 伊藤 陽一                                                                                                                                                                                                                                                              |
|            | か ま だ<br>鎌田 和郎                                                        | 難治性自己免疫疾患における新規治療薬・治療戦略の開発<br>主査：教授 氏家 英之                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|            | か わ き た<br>河北 一誠                                                      | 新規 iPS 細胞由来肝芽腫モデルにおいて高発現する PAGE4 は肝芽腫の進展を促進する<br>主査：教授 平野 聡                                                                                                                                                                                                                                                       |
|            | し ら と り<br>白鳥 翔也                                                      | 胆道癌におけるCD73発現とその進行・予後との関連性、及びその生物学的背景メカニズムに関する研究<br>主査：教授 武富 紹信                                                                                                                                                                                                                                                   |
|            | チ ョ ウ<br>張 立夫                                                         | Investigating the role of ECRG4 in Alzheimer's disease pathology and diagnosis<br>（アルツハイマー病の病理と診断におけるECRG4の役割の調査）<br>主査：准教授 外丸 詩野                                                                                                                                                                                 |
|            | な い と う<br>内藤 善                                                       | 腹腔鏡下ヘルニア修復術におけるノンテクニカルスキル評価表の開発とその有用性の検討<br>主査：教授 玉腰 暁子                                                                                                                                                                                                                                                           |

| 博士の専攻分野の名称 | 博士の学位を授与された者                                            | 博 士 論 文 名                                                                                                                                                                                                                                     |
|------------|---------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|            | 氏 名                                                     |                                                                                                                                                                                                                                               |
| 博士（医学）     | ほうじょう まさひろ<br>北條 正洋                                     | 大網を用いたマウス外科的リンパ系再構築に関する研究<br>主査：教授 安齊 俊久                                                                                                                                                                                                      |
|            | み た ら しん た ろ う<br>三田村 真太郎                               | 画像診断の不確実性を補完する末梢血cell-free DNAによる脈管奇形の遺伝子診断に関する研究<br>主査：教授 畠山 鎮次                                                                                                                                                                              |
|            | やす だ みつたか<br>安田 充孝                                      | 血管疾患と自己免疫応答の関連に関する研究<br>主査：教授 小林 弘一                                                                                                                                                                                                           |
|            | やまかど てつひろ<br>山角 哲弘                                      | A Systematic Histopathological Study of Duchenne Muscular Dystrophy Using Semi-Quantitative Image Analysis, Digital Restoration Techniques, and Exploratory Statistical Approaches<br>(デュシェンヌ型筋ジストロフィー筋生検標本の探索的統合解析による組織病理学研究)<br>主査：教授 矢部 一郎 |
|            | やまもと ひろゆき<br>山本 寛之                                      | 肝外胆管癌における好中球細胞外トラップ発現の意義と術前胆管炎および臨床病理学的因子との関連性に関する研究<br>主査：教授 小野 尚子                                                                                                                                                                           |
|            | みやぎき ともひこ<br>宮崎 智彦                                      | 局所進行非小細胞肺癌における心肺毒性を考慮した放射線治療の最適化に関する研究<br>主査：教授 加藤 達哉                                                                                                                                                                                         |
| 博士（歯学）     | たかはし けん た<br>高橋 賢多                                      | <i>Porphyromonas gingivalis</i> の口腔癌のリンパ節転移への関与<br>主査：教授 樋田 京子                                                                                                                                                                                |
| 博士（獣医学）    | ジ ヤ ン<br>JANG<br>オ ン ソ プ<br>Eomseob                     | Development and Evaluation of Diagnostic Methods for Bovine Tuberculosis and Johne's Disease<br>(牛結核およびヨーネ病の診断法の開発と評価)<br>主査：教授 東 秀明                                                                                                          |
| 博士（文学）     | クオ ルーメイ<br>郭 如梅                                         | マンガ＜百合＞表象論<br>主査：教授 押野 武志                                                                                                                                                                                                                     |
| 博士（学術）     | リュウ ビンウン<br>劉 ビンウン                                      | 礼文島におけるオホーツク文化の土器製作からみた社会集団の境界<br>主査：教授 加藤 博文                                                                                                                                                                                                 |
| 博士（人間科学）   | よこやま さと み<br>横山 聖美                                      | グリーンケアの社会的分析－医療化モデルの限界をケアネットワークで乗り越える－<br>主査：特任教授 櫻井 義秀                                                                                                                                                                                       |
| 博士（情報科学）   | の ほ ら たいせい<br>野原 大靖                                     | A study on Quantum-Classical Inter-Domain Classification Method<br>(量子-古典ドメイン間クラス分類手法に関する研究)<br>主査：教授 野田 五十樹                                                                                                                                  |
| 博士（工学）     | カン クンワン<br>姜 炅完                                         | Study on Thermal Stability of Thermoelectric Ba <sub>1/3</sub> CoO <sub>2</sub> Thin Films<br>(熱電 Ba <sub>1/3</sub> CoO <sub>2</sub> 薄膜の熱安定性に関する研究)<br>主査：教授 本久 順一                                                                            |
| 博士（情報科学）   | ヤン リン ボ<br>晏 凌波                                         | Evaluation of Laparoscopic Surgical Skill Using Surgical Instrument Motion Analysis and Machine Learning<br>(手術器具動作解析と機械学習による腹腔鏡手術技量評価)<br>主査：教授 近野 敦                                                                                         |
| 博士（食資源学）   | マ ニ サ<br>MANISA<br>ム ウ エ プ<br>MWEPU<br>パトリック<br>Patrick | Climate impact on child health and its possible solution-Social scientific approach in the Democratic Republic of Congo-<br>(気候変動が子供の健康に与える影響と対応策-コンゴ民主共和国を対象とする社会科学アプローチ-)<br>主査：准教授 齋藤 陽子                                                   |

## 論文博士

| 博士の専攻<br>分野の名称 | 博士の学位を授与された者         | 博 士 論 文 名                                                                                                                                                                   |
|----------------|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                | 氏 名                  |                                                                                                                                                                             |
| 博士（環境科学）       | はら だ<br>原田 実         | Functional analysis of the two heterogeneous flagella of the brown algal gametes using CRISPR-Cas9<br>(CRISPR-Cas9を用いた褐藻配偶子異質2本鞭毛の機能解析)<br>主査：教授 長里 千香子                     |
| 博士（理学）         | あお き<br>青木 雅允        | Infinite-dimensionality of the second bounded cohomology of free products of racks<br>(ラックの自由積の2次有界コホモロジーの無限次元性)<br>主査：教授 秋田 利之                                             |
| 博士（農学）         | わたなべ<br>渡邊 大樹        | 農業技術開発における制度の役割と成果－品種改良と育種技術の社会受容－<br>主査：教授 合崎 英男                                                                                                                           |
|                | おちあい<br>落合 啓太        | 脂質およびタンパク質による消化管ホルモンを介した生理作用に関する研究<br>主査：教授 比良 徹                                                                                                                            |
|                | よこやま<br>横山 史佳        | Environmental Regulation of Bile Acid Metabolism and the Pathophysiological Significance of 12-Hydroxylated Bile Acids<br>(環境要因による胆汁酸代謝の調節と12水酸化胆汁酸の病態生理学的意義)<br>主査：教授 石塚 敏 |
| 博士（獣医学）        | こん の<br>紺野 ひろや<br>紘矢 | Studies of dog leukocyte antigens genotyping based on canine visceral leishmaniasis<br>(イヌ内臓リーシュマニア症を起点としたイヌ主要組織適合性複合体遺伝子多型に関する研究)<br>主査：教授 森松 正美                           |

## ■ 研修

### 令和8年度法人文書管理に関する研修（初任・新任職員向け）

開催期間：令和8年5月29日（金）

開催場所：学術交流会館第一会議室及び大学文書館

研修目的：北海道大学採用の初任・新任職員に対して、法人文書管理に関する基礎知識を習得させるとともに、大学文書館公文書室で実施する法人文書の集中管理等について理解を深めることを目的とする。

主催部局：総務企画部総務課



講義（大学文書館・井上高聡教授）



大学文書館1階展示ホールを見学  
（大学文書館の山本美穂子特定専門職による解説）



大学文書館2階収蔵庫を見学



大学文書館1階会議室を見学  
（大学文書館の廣瀬公彦特任助教による解説）

## 令和8年度北海道大学初任・新任職員探訪研修（北大学）

開催期間：令和8年5月29日（金）

開催場所：学術交流会館及び札幌キャンパス南側

研修目的：札幌キャンパスにおける歴史的建造物等の探訪を通じて、札幌農学校に由来する札幌キャンパスの成り立ちと現在にいたる展開について学び、本学事務職員として必要な本学に対する理解と知識、愛着をより深めることを目的とする。

主催部局：総務企画部人事課及び総務課



講義（大学文書館・廣瀬公彦特任助教）



探訪風景（クラーク像）（大学文書館・井上高聡教授）



探訪風景（旧第二農場付近）（大学文書館・廣瀬特任助教）



探訪風景（大野池）（大学文書館・井上教授）

## ■表敬訪問

### 海外

| 年月日    | 来 訪 者                                                      | 来 訪 目 的           |
|--------|------------------------------------------------------------|-------------------|
| 8.6.11 | 駐日欧州連合代表部 Gijs Berends 一等参事官／<br>科学・イノベーション・デジタル・その他EU政策部長 | 今後の交流に関する懇談及びセミナー |
| 8.6.15 | 台湾 Mei-Yueh Ho 大統領顧問                                       | 今後の交流に関する懇談       |
| 8.6.29 | 工商協進会（台湾） 羅 忠祐 監事                                          | 今後の交流に関する懇談       |



Gijs Berends 駐日欧州連合代表部一等参事官／  
科学・イノベーション・デジタル・その他EU政策部長（左から7人目）



Mei-Yueh Ho 台湾大統領顧問（左から8人目）



羅 忠祐 工商協進会監事（右）

（国際部国際連携課）

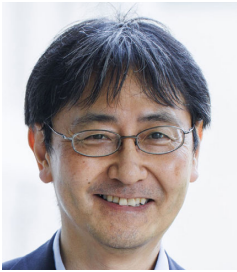
# 人事

令和8年7月1日付発令

| 新 職 名（発令事項）                                   | 氏 名              | 旧 職 名（現職名）                         |
|-----------------------------------------------|------------------|------------------------------------|
| 【教授】<br>大学院工学研究院教授                            | 田 島 健 次          | 大学院工学研究院准教授                        |
| 【課長・事務長・室長等】<br>学務部教育改革担当課長<br>学務部奨学・キャリア支援課長 | 芳 岡 洋<br>鈴 木 百 江 | 学務部学務企画課大学院教育改革推進室長<br>学務部キャリア支援課長 |

## 新任教授紹介

令和8年7月1日付



工学研究院教授に

た じ ま けん じ  
**田島 健次 氏**

応用化学部門生物工学分野

### 生年月日

昭和43年2月28日

### 最終学歴

北海道大学大学院工学研究科博士後期課程中退（平成7年3月）  
博士（工学）（北海道大学）

### 専門分野

分子生物学、高分子化学、生物化学工学

## 訃報

名誉教授 鵜飼 隆好 氏  
(享年90歳)



名誉教授 鵜飼隆好先生は、令和8年4月19日に享年90歳でご逝去されました。

先生は、昭和12年4月17日樺太の地に生まれ、終戦と同時に遠軽で育ち、同35年北海道大学工学部機械工学科を卒業しました。その後、新三菱重工業株式会社（現 三菱重工業株式会社）に勤務され、昭和37年北海道大学工学部講師に採用されました。昭和38年に助教授、同59年には教授に昇任されま

した。その間、昭和51年3月「多層板の残留応力測定理論」により、北海道大学より工学博士の学位を授与されました。平成13年に同大学を退職し、名誉教授の称号が授与されました。平成13年4月からは愛知工業大学教授に就任し、同20年に退職されました。

教育面では、39年の長きにわたり、工学部で機械設計学に関する種々の授業を担当されるとともに、室蘭工業大学、北見工業大学、北海道大学医療技術短期大学部等の非常勤講師も務め、専門分野の教育に広くご尽力されました。北海道大学を退職後も愛知工業大学において専門分野の講義を担当されました。

研究面では、機械構造物に応用される各種残留応力測定法の開発を行われました。曲率法による多層板、ひずみゲージ法による多層板、電着平板、電着多層円筒、X線による多層板や多層円筒、平面曲げによる鋼板、X線侵入深さを考慮した球や円筒、白色X線に

よるエネルギー分散法、コーティング界面、セラミックス、ハイドロキシアパタイト、生体骨組織といった数多くの残留応力測定法に関する研究成果を公表されました。人間作業システムや作業環境に関し、人間工学と経営工学を融合した人間中心型工程設計の研究にも成果を挙げられ、機械設計学の新たな分野への発展に貢献されました。

学外においては、日本機械学会本部理事、日本機械学会北海道支部長、文部省学術審議会専門委員、産業防災対策北海道支部推進委員会委員など、多くの要職を歴任されました。

このような真摯な研究活動と長年の教育貢献は高く評価され、平成29年春に瑞宝中綬章を受章されました。

ここに先生のご功績に敬意を表し、長年にわたる多大なご貢献に感謝申し上げますとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(工学院・工学研究院・工学部)

## 編集メモ

- 創基150周年記念事業としてお届けしてきた、本学OB作家 岩井圭也氏による北海道大学を舞台とした連作小説が、このたび第5話『北極星をえがく 天から降る手紙』をもって完結しました。第5話は7月17日（金）から配布しております。以下の特設サイトから試し読みもできますので、ぜひご覧ください。現在、第1～4話を期間限定で全文公開中です。

<https://www.hokudai.ac.jp/novel/>

- 7月3日（金）～8月30日（日）に、インフォメーションセンター「エルムの森」内のカフェdeごはんで「緑のピアテラス2026」を開催しています。お近くにお越しの際には、ぜひお立ち寄りください。

<https://www.hokudai.ac.jp/events/2026/06/post-1071.html>





## キャンパス懐古 16 旧図書館建物と木製電柱（1988年7月）

旧図書館の読書室（閲覧室）と書庫の建物は1902年の建築。1960年代半ばまで附属図書館として使用された。蔵書の増加に伴い何度も増築工事を行ってきた。写真では2階建レンガ造の書庫の北外壁に建物を取り壊したような跡が見られる。かつては3階建てコンクリート造の増築書庫が続いていた。また、写真では手前に出張っている白壁の閲覧室も増築部分であるが、現在は取り壊されている。閲覧室と書庫を繋ぐ付属建

物も現在と異なる。

旧図書館建物は、増築・改修・取り壊しを繰り返して、時代により異なる表情を見せながら、現在に至っている。緑の濃いローン、送電線を支える木製の電柱が、この時代の夏の情緒を醸し出している。

（大学文書館・北海道大学150年史編集室）